

Mineko Tsuchiya Piano Recital

土屋美寧子

ピアノリサイタル

ソナタの諸相

モーツァルト ソナタ ヘ長調 KV300k (332)
シューベルト ソナタ第20番 イ長調 D959
フランセ ソナタ イ長調 (1960)
ヤナーチェク ソナタ [1905年10月1日]
スクリャーピン ソナタ第4番 嬰へ長調 作品30


2018 4.15 日 | 14:00開演 (13:30開場)

サントリーホール ブルーローズ (小ホール)

全自由席 ¥4000

[チケットお申込み] チケットぴあ 0570-02-9999 (音声自動対応・Pコード 102-594) <http://t.pia.jp/>

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 ミリオンチケット 03-3501-5638 <http://millionconcert.co.jp/>

マネジメント: ミリオンコンサート協会 03-3501-5638 後援:  公益社団法人日本演奏連盟 一般社団法人全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ) クロイツァー記念会

Mineko Tsuchiya Piano Recital

Sun. 15th April 2018 2.00 p.m.

Suntory Hall / Blue Rose (Akasaka, Tokyo)

Diverse Aspects of Piano Sonatas

W. A. Mozart : Piano Sonata in F Major KV300k(332)

F. Schubert : Piano Sonata in A Major D959

J. Francaix : Piano Sonata (1960)

L. Janáček : Piano Sonata <I.X.1905>

A. Skrjabin : Piano Sonata no.4 in F sharp Major op.30 (1903)



©Shigeto Imura

プログラムに寄せて

今回のリサイタルのテーマにした「ソナタ」は、1700年代にその形式の元がイタリアで生まれました。第1と第2の主題を示す提示部、その主題を発展させる展開部、主題が戻ってくる再現部という3つの部で構成されるのがソナタ形式の基本です。モーツァルトの時代にはソナタ形式を用いた第1楽章に、ゆったりした第2楽章、メヌエットなどの第3楽章、華やかな終楽章が加わって大きな楽曲になる「ソナタ」が確立しました。それから現代に至るまで多くの作曲家が「ソナ

タ」を書いています。一応定められた形式の中で発揮される作曲家の独創性は、自由な形式で書かれた作品よりも際立つように思います。典雅なモーツァルト、抒情あふれるシューベルトを前半に、洒落なフランセ、実際に起こった事件を描いたヤナーチェク、耽美的そして幻想的なスクリャーピンを後半において、「ソナタ」の中を冒険するように、古典から現代までを旅してみたいと思います。皆様にもぜひこのアドベンチャーをご一緒に楽しんでいただけますようお願いしています。

土屋美寧子

Profile

土屋美寧子(つちやみねこ)のソロリサイタルは、1976年以来東京、名古屋など国内各地で隔年毎に開催され、テーマを定めたプログラミングと演奏の双方が高く評価されている。前回2016年の「いつの世も喜びと悲しみは結ばれている」と題したリサイタルは、「ベートーヴェンでは格調高い音楽作りが注目され、シューマンでは、対照的なキャラクターの間で揺れ動く表現が実に味わい深い。シューベルトの舞曲に聞く洗練された節回しも印象的であり、ソナタでは美しいタッチとともに曲想にそった表情の変化が聞きものだった。」(音楽の友誌)などの好評を得た。室内楽の分野では、ヴァイオリニストの和波孝禧とデュオを組み、日本各地や欧米各国で数多くの演奏や放送及びCD録音を行っているほか、他の奏者との共演も活発に行っている。2017年はクラリネットの橋本杏奈氏と東京や長野県内でソナタやトリオを共演した他、9月に「ピアノトリオ・シューマン、ドビュッシー、ブラームス」のCDをリリースした。

指導の分野では、毎夏「八ヶ岳サマーコース」で室内楽グループをコーチ。1999年からは「室内楽短期セミナー」を主宰してピアニスト及び弦楽器奏者を指導。2009年より沖縄芸大非常勤講師として室内楽集中授業を担当。PTNA(全日本ピアノ指導者協会)ピアノコンペティションの審査員、ピアノステップのアドバイザーを務めている。

これまでに岸川基彦氏、鷹取淑子氏、永井進教授、カール・ゼーマン教授、ヘルムート・バルト教授、ジョルジ・シェベック教授らに師事。都立駒場高校音楽科を経て1972年東京芸術大学卒業、1971年クロイツァー賞受賞。1975年ドイツフライブルク音楽大学卒業。

好評発売中



[2017年9月発売]
ライブノーツ wmc-7845 ¥2500+税

ピアノトリオ/シューマン・ドビュッシー・ブラームス 和波孝禧 (ヴァイオリン) 岩崎洗 (チェロ) 土屋美寧子 (ピアノ)

シューマン：ピアノトリオ第1番 二短調 op.63

ドビュッシー：ピアノトリオ 長調

ブラームス：ピアノトリオ第3番 八短調 op.101

冒頭の第1音から濃厚なロマンティシズムとともに「音楽する喜び」が溢れ出てくるよう。音楽への感性を共有し、この3人でしか構築し得ぬ響きの世界が形作られている。(レコード芸術11月号・寺西肇氏評)

これ以上はないというくらいの魅力的なプログラム。(レコード芸術12月号・大木正純氏評)

聞きどころは枚挙にいとまがない。(レコード芸術12月号・中村孝義氏評)